

◎村田久美市民生活部長

白山市地球温暖化対策地域推進計画の第1期計画書と第2期計画の数値のそごについてお答えします。

基準年度1990年度の二酸化炭素排出量が第1期計画書と第2期計画では数値に違いがあるのはどうしてかについてですが、第1期、第2期とも、国の示した地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアルの数字を使用しております。

この数字については、国及び都道府県別の総合エネルギー統計などで推計されているところではありますが、2018年度に統計の精度を向上させるため、推計方法に変更があり、これに伴い、1990年度まで遡って修正が行われたことから、数字が変更されたものです。

次に、二酸化炭素排出量を第1期計画書では2020年度までに基準年の1990年から10%減を目標としていたが、第2期計画書の実績では10年間で10%減どころか、2倍以上に増加している。どうしてこのような結果になったのかについてですが、本市におきましては、部門別の温室効果ガス排出量において、製造業の占める割合が42%を占め、県内でもトップクラスで製造業が盛んなところでもあり、1990年度は3,249億円、2018年度には6,315億円と市内の製造品出荷額が倍増しており、それに伴い、温室効果ガスの排出が増加したことが原因であると考えております。

次に、環境審議会などでの計画の進捗状況の検証や見直しの検討機能は果たされたのかについてですが、毎年、環境審議会及び地球温暖化対策地域協議会において、再生可能エネルギーの利用、市民・事業者の地球温暖化対策活動などの4分野、35項目についての検証を行っておりますが、先ほど申し上げましたように、企業活動が活発であったり、人口や世帯が増加したりすることで、それに伴い、温室効果ガスが増加している状況であります。

以上でございますので、よろしく願いいたします。